

犯人の顔

小学生無差別殺人事件の犯人に対し  
またもや田中真紀子節炸裂!

大阪池田の小学校に男が乱入し、無差別に子供に切りかかり、8人を死亡させたあの事件は実に痛ましく、一刻も早くこの事件に巻き込まれた方々が立ち直るのを心から願う次第だ。さて、この事件直後、容疑者が毛布を被った状態で移送されていたことを受けて、田中真紀子氏が「責任能力のある成人の容疑者なんだから、なぜ顔を隠すのか」とコメント。確かに感情的に考えれば「どんなツラしとんねん」と思わないでもないが、容疑者をさらし者にするか否かはぜんぜん事件の根本とは関わりないこと。それよりも、犯罪に至った経緯などを徹底的に調べ、二度とこのような犯罪が起きないように、国民全員が対策を考えることの方がよほど大事だ。この事件を教訓に国民全員が丸となって対応しなければならないこの時期に、国民のリーダー的存在がことの本質からズレたコメントをするのはどうだろう？ 田中さん、ハッキリしたもの言いが好む国民も確かに多いですが、いたずらに犠牲者や関係者の怒りの炎に油を注いだり、カッと成って国民の気持ちをヒステリックに扇動するような言動は慎んでね。

一番新しい日本の一ページ

# いまだどきの歴史

ンな無茶な!

ますます加熱する米タバコ訴訟  
吸った人の自己責任はどうなる?

タバコ吸うにはこれくらいの  
カクゴが必要?



「タバコの危険性を承知しながらも充分な警告をせずにタバコを売り続けた」として、肺ガン患者がアメリカの大手たばこ会社・フィリップ・モリス社を訴えた訴訟で、30億ドルというあまりにも無茶な賠償金の支払い命令が下った。控訴審が控えているので、今後どう転ぶかはわからないが、他社も含めた各タバコ会社の責任問題が問われていくことだろう。それにしても、このタバコ訴訟、原告側は喫煙による病気の責任をあまりにも一方的にタバコ会社に押し付け過ぎではないだろうか? タバコ害の責任をメーカーだけに問わず、国も指導不十分をもっと反省して欲しい。これからは学校教育や家庭教育でしっかりタバコのリスクマネジメントができる人間を育てるべし。そして、ほとんどの喫煙習慣は強制的に身につけられたものではない。タバコは法律で認められた嗜好品。だが、体に悪いとわかっているなら、なるだけ手を出さぬ方が自分と家族のためだ。

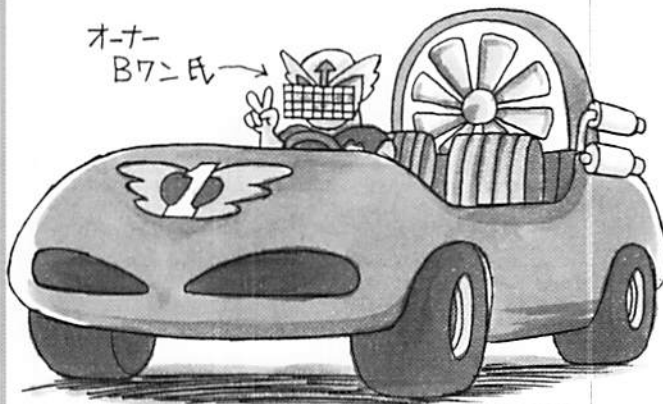
この人にはこの師が必要



車のツルシあげ?

自動車産業に魔女狩りの危険!?  
交通事故の車種別死傷率が発表へ

交通安全白書は、交通事故の件数や死傷者数を年齢別や都道府県別などに分けた資料である。そしてこの度、2000年度交通安全白書に車種別の死傷率が公表されることが決まった。しかし、交通事故の原因は不注意や交通違反がほとんどで、車に事故の原因があるのはほんのわずか。ましてや、車種発表と言っても、生産年度や装備などに触れるわけではないので、たいした基準にならないのではないだろうか。この新方針が特定の車種を単純に危険とみなす「魔女狩り」にならないことを祈りたい。ただ、車種を公表することで、運転する人の意識、メーカーの意識が変わることを期待できないわけではない。そして、同じ事故でもやはり車種（大型車と軽車両のちがいがいなど）によって死傷率が変わるのも明らか。車の購入を考えている人が、流行やデザインだけでなく、そのへんのリスクマネジメントに役立ててくれるなら、この新しい方針にも多少は意味があるかも。



1970年代 もっとも  
車種別死傷率が低かった車  
しかも低公害!!



文◎大塚 祐希  
1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと酔ってしまふ」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史  
1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>